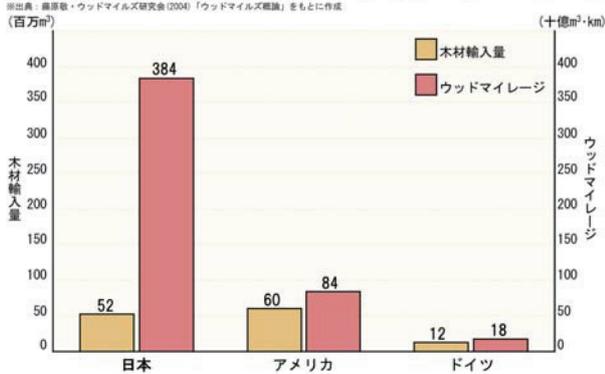


2003 (H15年度: 2003.6-2004.3)

各国から日本へ輸入される木材の輸送距離



日米欧の木材輸入量とウッドマイレージ



きっかけはフードマイレージ

1994年にイギリスの消費者運動家、ティム・ラング氏によって、食料の生産地から食卓までの距離に着目し、なるべく近くでとれたものを食べようという消費運動「フードマイルズ」が提唱された。これを参考に日本では、輸入食料品を対象に新たに「フードマイレージ」(t・km) = (輸入相手国別の食糧輸入量(t)) × (輸出国から日本までの輸送距離(km))として定義され、輸入食料を考える新たな指標が生まれ出された。

2001年の朝日新聞のコラム「私の視点」(「地産地消」で循環型社会を)の中で、農林水産政策研究所長(当時)の篠原氏によって「フードマイレージ」が紹介された際、読者の反響に「木材の輸入こそ大問題であり、家1軒の木材輸送距離を計算して欲しい」といった意見があった。これを受け、森林総合研究所理事(当時)の藤原敬氏によって、「ウッドマイルズ」(木材総輸送距離)と地域材利用住宅という小論文が木材情報2002年8月号に掲載され、ウッドマイルズによって、日本の木材貿易の態様や地域材利用住宅に分かり易い指標を提供できる可能性が示された。



(岐阜県立森林文化アカデミー)

岐阜県立森林文化アカデミーから研究会発足へ

時を同じくして岐阜県では、2001年に「岐阜県立森林文化アカデミー」というユニークな専修学校が開校した。林業短期大学校を前身とし、現状の森林・林業の問題を打開すべく、木造建築やものづくり、環境教育などの分野にまで枠を広げた実践教育を主とする学校で、開学当初は全国各地から様々な職歴を持つ学生が集まった。三澤文子教授率いる木造建築スタジオでは、木造建築の実践を通じて、地域の山林から町まで人や物のネットワークを再構築するための様々な実践活動が行われていた。その中の取組の一つとして当時学生であった滝口泰弘氏により、ウッドマイルズに関する事例研究が行われ、地域材住宅の明快な推進ツールになり得ることが示された。

その後まもなく、提唱者である藤原敬氏の呼びかけにより、下記26名の設立呼びかけ人と設立趣意のもと、岐阜県立森林文化アカデミー学長(当時)の熊崎実氏を会長として、2003年6月12日、ウッドマイルズ研究会が誕生した。

【設立呼びかけ人(50音順 ◎代表呼びかけ人)】

飯塚昌男(全国森林組合連合会会長)、榎戸正人(LICC会長)、海老原徹(日本木材学会監事)、遠藤日雄(鹿児島大学教授)、大熊幹章(東京大学名誉教授)、岡勝男(日本住宅・木材技術センター理事長)、岡崎時春(FoE Japan代表理事)、岡本功(NPOレ

インボー理事)、小澤普照(林政総合研究所理事長)、◎熊崎実(岐阜県立森林文化アカデミー学長)、小池一三(OMソーラー協会理事長)、小林富士雄(大日本山林会会長)、坂崎有祐(岐阜県立森林文化アカデミー)、桜井尚武(日本林学会副会長)、篠原孝(農林水産政策研究所所長)、滝口泰弘(滝口建築スタジオ代表)、外崎真理雄(森林総合研究所物性研究室長)、西村勝美(日本住宅・木材技術センター技術開発部長)、野池政宏(炭と環境社代表)、長谷川敬(緑の列島ネットワーク代表)、速水亨(日本林業経営者協会副会長)、前川豊志(日本木材総合情報センター理事長)、藤本昌也(日本建築士会連合会理事)、藤原敬(森林総合研究所理事)、古河久純(日本林業経営者協会会長)、三澤文子(岐阜県立森林文化アカデミー)

【ウッドマイルズ研究会設立趣意書】

木材は身近に利用できる資材として古くから人々の生活を支えてきましたが、大量消費社会の限界が見え始めた現在、再生産可能で製造過程でのエネルギー消費が少ないエコマテリアルとして、また地域循環の鍵を握る資材として、再び注目を浴びようになってきました。

ただし安価で均質という工業用途としての利便性を追い求めた結果、我が国は地球の裏側の木材を大量に消費することとなり、エコマテリアルといいながら輸送過程で膨大な化石燃料を消費し、また、木材の大切な性質である「再生可能な資材」という点についても、私たちが手の届かない産地における「違法伐採」などという形で、疑問を突きつけられることとなっています。

私たちは、木材の「人と地球に優しい」という属性を、消費者が自信を持って選択するための手助けとして、また、我が国の大量消費社会の矛盾を示す尺度として、木材の産地から消費地までの距離(ウッドマイルズ)についての様々な情報を提供することが必要だと考えました。

はるか遠くから運ばれてくる木材は、その輸送に掛かるエネルギーも莫大です。家を作る木材を地球の裏側から輸送するのに必要なエネルギーは、その家を作るためのすべての部材を作るのに必要なエネルギーに匹敵します。輸送過程のエネルギーは、近くの山の木を使う程度によって、どれだけ少なくなっていくのでしょうか。それをわかりやすく提示するために、使用した木材の量と距離を物差しとした指標(ウッドマイレージ)を開発します。

リユース、リサイクルなど、環境問題解決のための様々な手法があります。家作りにおいても、製造、生活、廃棄と様々な段階で、取り組みが行われていますが、今求められているのは、それらを全て統合した、「ライフサイクルエネルギー」という視点です。

いくら長持ちする家を作ったとしても、それが全て輸入材であったら。いくら居住について省エネの家を作ったとしても、その建材の製造に莫大なエネルギーがかかったら。

「ウッドマイルズ」や「ウッドマイレージ」は、木材の輸送エネルギーに関する一指標ですが、ここを出発点とし、家作りのライフサイクルエネルギーを解明し、地域材による地域の循環型社会の構築を目指すものです。特に森林保有大国、および木材貿易大国であるわが国にとって、木材輸送を改善して行くことは、最重要課題の一つです。

「ウッドマイルズ研究会」は、ウッドマイルズ概念を主軸に、情報発信・蓄積、調査・研究、および交流の場となって、循環型社会の構築を目指した普及・啓発活動を行っていきたくと考えています。

研究会発足後、ホームページの開設及びニュースレター「木のみち」の配信に取組み、2003年9月には、「住宅ウッドマイレージ」、「住宅ウッドマイレージCO2」、「住宅ウッドマイレージL」、「流通把握度」という指標からなる、「住宅ウッドマイルズ関連指標算出マニュアル(暫定案)」を公開した。また、ウッドマイルズの趣旨や目的を正しく理解し、誤った使用を防止するため、「ウッドマイルズ」、「ウッドマイレージ」(標準文字)の商標登録も取得した。

The collage features several key elements:

- Shinken Housing (新建築):** A magazine page from June 30th, 2003, featuring 'Wood Miles' as a topic.
- Newspaper Article:** A headline reads '消費者が自信もって地域材住宅を選ぶ指標に' (A standard for consumers to choose local material housing with confidence). The article discusses the 'Wood Miles' concept as a metric for local material usage.
- Graph: 分析したウッドマイルズ指数 (Analyzed Wood Miles Index)**

項目	日本	ドイツ
輸送過程消費エネルギー	24.7%	25.6%
製造過程消費エネルギー	52.2%	41.1%
合計	76.9%	66.7%
- Vertical Banner:** '家造りのエネルギー負荷削減に『ウッドマイルズ』の考え方' (Thinking about 'Wood Miles' to reduce energy load in home construction).
- Other Text:** Various smaller articles and notices, including one about 'SCの家' (SC House) and 'ウッドマイレージ' (Wood Mileage).

2004 (H16 年度 : 2004.4-2005.3)



(2004 年度総会 (岐阜))



(ウッドマイルズセミナー&森林文化アカデミー見学会 (岐阜))

2004 年度ウッドマイルズ研究会総会

4/24 (土)、岐阜県立森林文化アカデミーで 2004 年度総会が開催された。正会員 31 名及び表決委任者 17 名による総会は、藤原議長のもと全ての審議事項が承認された。(正会員個人 29 名、正会員法人 5 社、賛助会員個人 15 名 : 2004.4.1 現在)

ウッドマイルズセミナー (岐阜)

総会に引き続き同会場にて、岐阜県立森林文化アカデミー主催の短期技術研修として、初めてのウッドマイルズセミナーが開催された。「ウッドマイルズ概論」藤原敬氏、「ウッドマイルズ指標工房～マニュアル・計算ソフトの使い方」坂崎有祐氏、「ウッドマイルズの展望～ウッドマイルズと LCA」野池政宏氏、「ウッドマイルズと行政～京都での取組」白石秀知氏、という 4 つの講演が行われ、研究会関係者含め 18 名が参加した。セミナー終了後は岐阜県産材をふんだんに使用した、岐阜県立森林文化アカデミーの校舎見学会も開催された。



(ウッドマイルズセミナー (京都))

ウッドマイルズセミナー (京都)

4 月の岐阜のセミナーに続き、7/26 (月) ~7/27 (火)、京都府西別館会議室にて、1 泊 2 日のウッドマイルズ研究会自治体職員セミナーが開催された。各都道府県職員を対象に、木材の地産地消の一つの指標となるウッドマイルズについて学習すると共に、全国各地の地域材を積極的に利用することで、地域振興と森林整備を促す都道府県・市町村や市民の活動交流を図ることを目的として、初日は「ウッドマイルズ概論」藤原敬氏、「ウッドマイルズマニュアルと計算ソフトの使い方」野池政宏氏、「木材利用における LCA の考え方と課題」橋本征二氏 (国立環境研究所)、「地産地消を促す行政施策とウッドマイルズ (事例報告と展望)」京都府他の講演が行われ、翌日は「使うことで森を守る市民運動とウッドマイルズ」と題して、関原剛氏 (ウッドストック協同組合顧問)、稲木清貴氏 (東京の木で家を造る会事務局長)、鹿住貴之氏 (樹恩ネットワーク事務局長)、の報告を交えたディスカッションを開催した。セミナーには各地から 55 名が参加した。

マニュアル・計算ソフトの整備

2003 年度に作成した「住宅ウッドマイルズ関連指標算出マニュアル (暫定案)」について、各方面から頂

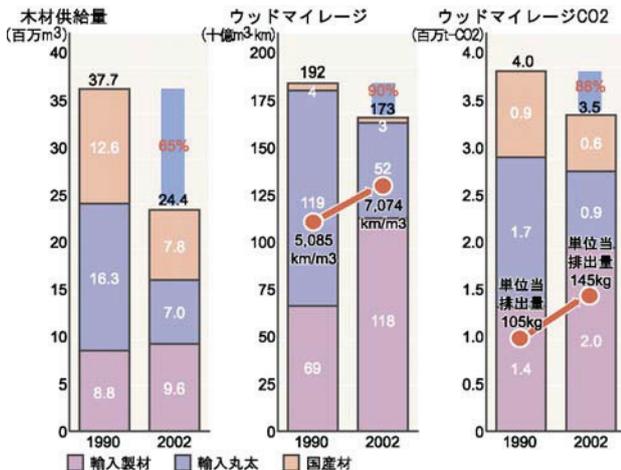
いた意見を踏まえ、「建築物ウッドマイルズ関連指標算出マニュアル Ver.2004 (改訂検討案)」を作成し、7月のセミナーで公開した。公開に合わせて、計算プログラムの整備も行った。

環境経済・政策学会大会報告

2004年8月に広島で開催された環境経済・政策学会大会において、藤原敬、嶋瀬拓也、高橋卓也、立花敏、野田英志による「地域材利用推進施策と木材の輸送過程のエネルギー～ウッドマイルズ指標を使った政策の評価」が報告された。ウッドマイルズ指標を用いた分析により、国内で消費されている木材のウッドマイルズを低減することにより、木材の輸送過程排出CO₂も大幅に削減できることなどが示された。

日本の木材輸送距離

日本で使われる木材の平均輸送距離は、割安な輸入製材へのシフトが著まり、1990年の5,085km/m³から、2002年の7,074km/m³へ、12年間で約4割延びています。



(出典) 藤原敬、嶋瀬拓也、高橋卓也、立花敏、野田英志「地域材利用推進政策と木材の輸送エネルギー：ウッドマイルズ指標を使った政策の評価」(2004) / 環境経済・政策学会大会報告

京都府ウッドマイルージ CO₂ 認証制度スタート

京都府農林水産部林務課を中心に、京都府地球温暖化防止活動推進センターや地元関係事業者、学識者、ウッドマイルズ研究会などによる制度作成ワーキンググループによる準備期間を経て、2004年12月に京都府産木材認証制度(通称：ウッドマイルージCO₂認証制度)が創設され、間伐材製品から試験的に運用を始め、2005年2月16日の京都議定書発効日に合わせて、認証木材の初出荷が行われた。

自治体の木材認証制度に初めて環境指標としてウッドマイルズ関連指標が組み込まれた全国初の制度であり、「地元で育てた木を、地元で使う。木にも、人にも、地球にも、それが一番いい!」をキャッチフレーズとして、制度の指定認証機関である京都府地球温暖化防止活動推進センターを中心に、森林・木材関係業者、建築関係者、府民を巻き込んだ活動が始まった。



その後、2005年12月の制度改正により、一般製材品にまで制度を拡大し、2006年2月16日に一般製材品の出荷が行われた。さらに、2006年9月には、ウッドマイルージCO₂認証木材を使用した住宅に対して、20万円(1万円/m³)を上限に交付する、環境にやさしい京都の木の家づくり支援事業(緑の交付金)も開始された。

ウッドマイルージCO₂認証制度は、地域ぐるみの木材の地産地消運動を促すきっかけとなった、自治体との連携の好例である。

2005 (H17 年度 : 2005.4-2006.3)



(2005 年度総会 (京都))



(ウッドマイルズ入門セミナー (京都))



(ウッドマイルズ地域材セミナー (京都))

2005 年度ウッドマイルズ研究会総会

6/11 (土)、厚生会職員会館「かもがわ」で 2005 年度総会が開催された。正会員 11 名及び表決委任者 14 名による総会は、藤原議長のもと全ての審議事項が承認された。(正会員個人 35 名、正会員法人 9 社、賛助会員個人 16 名 : 2005.4.1 現在)

ウッドマイルズ入門セミナー (京都)

総会に引き続き同会場にて、ウッドマイルズ地域材セミナーが開催された。「ウッドマイルズが切り開く循環社会」藤原敬氏、「算出マニュアルの改訂とウッドマイルズレポート」滝口泰弘氏、「京都府産木材認証制度の取組」白石秀知氏の 3 つの講演に続き意見交換会が行われ、30 名が参加した。

ウッドマイルズ地域材セミナー (京都)

7/21 (木) ~ 7/22 (金)、京都府西別館会議室にて、1 泊 2 日のウッドマイルズ地域材セミナーが開催された。初日は「ウッドマイルズは何を明らかにするのか」藤原敬氏、「ウッドマイルズの算出方法と事例」滝口泰弘氏、「ウッドマイレージ CO2 を組み込んだ京都府産木材認証制度」白石秀知氏、の講演が行われ、翌日は「地域材を使って森林を守る事例報告」と題して、「山の立木を購入して取組む家づくり」坂田徳一氏 ((株) 坂田工務店代表取締役)、「環境貢献度で山の立木を販売するサウンドウッズ」能口秀一氏 ((有) ウッズ代表取締役社長)、「地域材を使って森林を守る府民運動」田村宏明氏 (企業組合もえぎ設計) の報告を交えたディスカッションを行った。セミナーには各地から 50 名が参加した。

ウッドマイルズ算出講習会 (岐阜)

11/29 (土) ~ 11/30 (日)、岐阜県立森林文化アカデミーにて、1 泊 2 日のウッドマイルズ算出講習会が開催された。初日は「地域材による家づくり」三澤文子氏、「ウッドマイルズの算出方法と事例」滝口泰弘氏の講義、及びパソコンを用いた「ウッドマイルズ算出実習」滝口泰弘氏、坂崎有祐氏の講義が行われ、翌日は「ウッドマイルズは何を明らかにするのか」藤原敬氏の講義に続いて、意見交換を含めたワークショップを行った。講習会には各地から 29 名が参加し、ウッドマイルズ研究会会員受講者をウッドマイルズ関連指標算出技術者として認定した。



(ウッドマイルズ算出講習会 (岐阜))

マニュアル・計算ソフトの整備

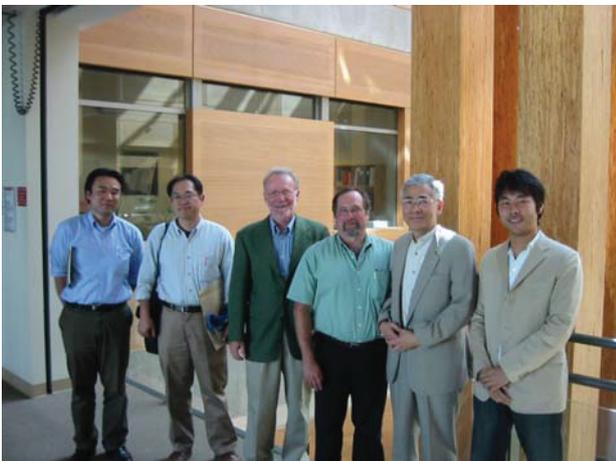
研究会発足時から進めてきた「建築物ウッドマイルズ関連指標算出マニュアル」について、暫定版でない初の正式マニュアル、及び「ウッドマイルズ関連指標算出プログラム」を作成公開した。また、国際学会参加に合わせて、英語版のマニュアルも作成公開した。

建築材料世界会議参加発表

8/22～8/24 にかけて、カナダのバンクーバーで開催された建築材料世界会議 (ConMat'05) に参加し、初めて国際会議の場でウッドマイルズに関する発表を行った。48ヶ国から 365 のペーパーが提出された建築材料に関する会議では、木材に関する分科会は 70 の内 2 つのみで、その 1 つの分科会で「建築資材としての木材エネルギー評価とウッドマイルズ指数の開発：日本におけるウッドマイルズ運動の展開と背景」について発表し、輸送エネルギー算出の詳細や他の資材への応用に関する質疑応答が行われた。会議での報告後、ホテルの一室で自主的なミニセミナーも開催した。翌日は、ブリティッシュコロンビア大学森林科学センターにおいて、関係者との意見交換会も行った。



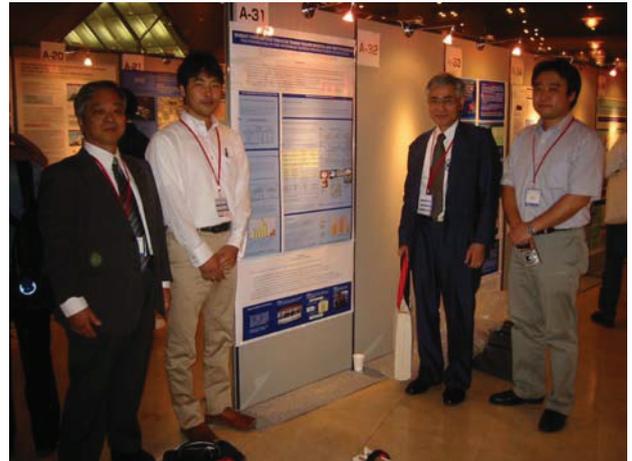
(建築材料世界会議：発表)



(ブリティッシュコロンビア大学：意見交換会)

サステナブル建築世界会議参加発表

9/27～9/29、東京の高輪プリンスホテル開催されたサステナブル建築世界会議東京 (SB05TOKYO) のポスターセッションに参加し、「木材の輸送エネルギーとウッドマイルズ」を発表した。ウッドマイルズの背景となった木材の輸送距離の負荷についての説明をするとともに、日本の三大木材ドーム (出雲ドーム、大館樹海ドーム、宮崎木の花ドーム) の構造材の輸送過程の環境負荷を比較し、構造材の取得過程による環境負荷の違いを明らかにし、ウッドマイルズ指標の有効性を検証した発表である。会議には 80 カ国から 1800 人が集まり LEED の関係者や日本の関係者とも意見交換を行った。



(サステナブル建築世界会議：ポスターセッション発表)

公共建築物に関するウッドマイルズ調査報告

住宅だけでなく、公共建築物に対するウッドマイルズの普及活動の一環として、設計プロポーザル時に地域の丸太の積極的な利用と共にウッドマイルズを主要なコンセプトとして掲げ採択された「長久手町平成こども塾」のウッドマイルズ調査を行い、木材の産地別の輸送エネルギー比較や、木造と鉄骨造の製造エネルギーを含めた環境負荷の比較分析を行い、公共建築物における木造や地域材の採用による環境負荷削減効果を示した。



2006 (H18年度：2006.4-2007.3)



(2006年度総会 (愛知))



(ウッドマイルズ入門セミナー2006 (愛知))



(長久手町平成こども塾見学会 (愛知))

2006年度ウッドマイルズ研究会総会

6/3 (土)、サンプラザシーズンズで 2005 年度総会が開催された。正会員 13 名及び表決委任者 19 名による総会は、藤原議長のもと全ての審議事項が承認された。(正会員個人 47 名、正会員法人 10 社、賛助会員個人 21 名：2006.4.1 現在)

ウッドマイルズ入門セミナー (愛知)

総会に引き続き同会場にて、ウッドマイルズ入門セミナー2006 が開催された。「ウッドマイルズの 3 年間で今後の展望—地球からみた地域資源の指標の

可能性」藤原敬氏、「地域材建築とウッドマイルズの実践—長久手町平成こども塾レポート」滝口泰弘氏、「ウッドマイレージ CO2 を組み込んだ京都府産木材認証制度」白石秀知氏の 3 つの講演が行われ、32 名が参加した。午前中は長久手町平成こども塾の見学会も開催された。

ウッドマイルズ地域材セミナー2006 (滋賀)

9/5 (火) ~9/6 (水)、大津合同庁舎にて、1 泊 2 日のウッドマイルズ地域材セミナー2006 が開催された。初日は「地球環境から見たウッドマイルズ」藤原敬氏、「地域材建築とウッドマイルズの実践」滝口泰弘氏、「木材の炭素収支とウッドマイルズ」外崎真理雄氏 (森林総合研究所)、の講演が行われ、翌日は、「ウッドマイレージ CO2 を組み込んだ京都府産木材認証制度を中心とした京都府の取組」白石秀知氏、「環びわ湖材産地証明制度と琵琶湖森林づくり県民税を充当する事業の取組」川崎由量氏 (滋賀県琵琶環境部林務緑政課)、「滋賀県協働部活プロジェクトの取組~持続可能な社会を実現するための県民行動とは? フードマイレージ・ウッドマイレージの低減」高階智里氏 (NPO 法人エコ村ネットワーク)、 「滋賀県の地産地消の活動報告~木を伐るところから始まる、こだわりの家づくり」宮村太氏 (安曇川流域・森と家づくりの会代表コーディネーター) の報告を交えたディスカッションを行った。セミナーには各地から 41 名が参加した。



(ウッドマイルズ地域材セミナー2006 (滋賀))

ウッドマイルズ算出講習会 (岐阜)

11/25 (土) ~11/26 (日)、岐阜県立森林文化アカデミーにて、1 泊 2 日のウッドマイルズ算出講習会 2006 が開催された。初日は「森林文化アカデミー木造建築スタジオの活動」辻充孝氏、「ウッドマイルズの概要と今後の可能性および算出方法」滝口泰弘氏の講義、及びパソコンを用いた「ウッドマイルズ算出実習」辻充孝氏、滝口泰弘氏の講義が行われ、翌日は「京都府におけるウッドマイルズ算出事例」瀧上佑樹氏 (京都府地球温暖化防止活動推進センター)、「森につながる家づくり - 新潟県の取組」二野宮雅宏氏 (新潟県)、「森林クラスターによるまちづくり」

相馬修二氏（北海道下川町）、「地域材による施設づくり - 美濃市道の駅」滝口泰弘氏の講義が行われた。講習会には各地から 15 名が参加し、ウッドマイルズ研究会会員受講者をウッドマイルズ関連指標算出技術者として認定した。



(ウッドマイルズ算出講習会 (岐阜))

ウッドマイルズ出版記念セミナー (東京)

3/24 (土)、東京都の有形文化財でもある求道会館にて、「ウッドマイルズミニセミナー2007in 東京(地元の木をつかうこれだけの理由出版記念)」が開催された。研究会初の書籍出版に合わせて開催された関東で初のウッドマイルズセミナーである。「ウッドマイルズとは何だろう～森林と消費者の距離が明かすもの」藤原敬氏、「近くの山の木は環境に優しい～木造住宅の新たな環境指標」滝口泰弘氏、「木の家づくりとウッドマイルズ～民家型構法から森林文化アカデミーの木造教育へ」三澤文子氏、「林業政策とウッドマイルズ～京都府産木材認証制度の取組」白石秀知氏の講演、及び意見交換会が行われた。



(ウッドマイルズ出版記念セミナー (東京))

マニュアル・計算ソフトの整備

建築物限定の削除、算出区分の定義、加工歩留まり計算の削除、自動車 CO2 原単位の見直し等、より合理的な指標となるよう大幅な改定を加えた「ウッドマイルズ関連指標算出マニュアル Ver.2006 及び同算出プログラム」を作成公開した。

ウッドマイルズセミナーin シドニー

岐阜県立森林文化アカデミーや UNSW (The University of New South Wales) の協力を得て、

7/14、シドニー郊外にある UNSW キャンパス内にて、海外で2回目となるウッドマイルズセミナーを開催した。地元の林産業界関係者も含め約 40 名が参加したセミナーでは、「オーストラリアの木材生産と現状について」Stephen Mitchell 氏、「日本の森林と木造建築を取り巻く現状について」三澤文子氏、「ウッドマイルズの概要と可能性について」藤原敬氏、「ウッドマイルズ関連指標の詳細について」滝口泰弘氏、「森林文化アカデミーと UNSW の学生による協同プロジェクト」三澤文子氏、「京都議定書とウッドマイルズについて」Ian William Fry 氏の講演が行われ、講演終了後には、地球温暖化防止関連交渉の地元キーマンである Ian William Fry 氏のインタビューも行った。滞在期間中には、オーストラリアの森林や製材所見学ツアーも開催された。



(ウッドマイルズセミナー (シドニー))



(Ian William Fry 氏インタビュー)

伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発

森林総合研究所との共同研究「伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発プロジェクト」が始まり、初年度は、岐阜県・京都府において同一都道府県内の木材流通実態調査を行った。

地場産材の定義提案

CASBEE-戸建の整備に際して、全国の関係者に対するアンケート調査を実施し、「地場産材とは、現状の取引の実態をふまえ、産地と消費地との距離が同一都道府県内、または隣接都道府県内、もしくは産地から最終消費地までの輸送距離が、およそ 300 km 以内の木材とする」という地場産材の定義を提案した。

2007 (H19年度：2007.4-2008.3)



(2007年度総会(つくば))



(ウッドマイルズフォーラム 2007(つくば))

2007年度ウッドマイルズ研究会総会

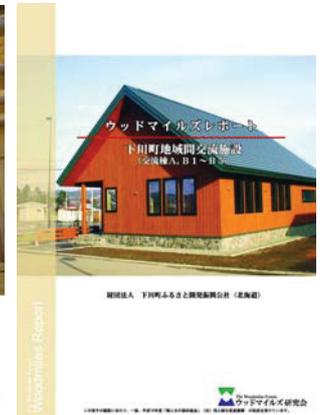
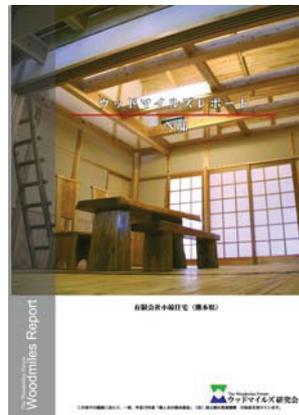
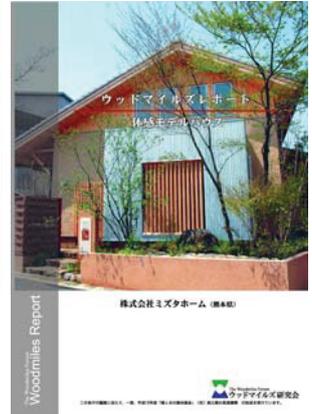
6/30(土)、つくば国際会議場で2007年度総会が開催された。正会員9名及び表決委任者34名による総会は、藤原議長のもと全ての審議事項が承認された。(正会員個人63名、正会員法人11社、賛助会員個人24名：2007.4.1現在)

ウッドマイルズフォーラム 2007(つくば)

総会終了後、ハウジングギャラリーつくば内にある、いばらぎの家モデルハウスにて、ウッドマイルズフォーラム2007が開催された。「ウッドマイルズ 大国日本と木材の輸送距離の持つ意味」藤原敬氏、「輸入材のウッドマイルズ」立花敏氏(森林総合研究所)、「地域材建築とウッドマイルズ」滝口泰弘氏、「つくばスタイル木の家クラブの活動報告と県産材の活用」中村泰子氏(つくばスタイル木の家クラブ)、「京都発 木材の地産地消運動」白石秀知氏の5つの講演が行われ、35名が参加した。終了後には参加者により、森林認証材を用いた木造住宅の見学会も行われた。

ウッドマイルズレポートの発行

初のウッドマイルズレポート発行に際して、ウッドマイルズレポートモニター事業として対象物件を募集し、熊本及び北海道の4件の住宅建築のウッドマイルズレポートの作成編集を行った。



ウッドマイルズセミナー2007in 熊本

ウッドマイルズレポートの発行に合わせて、8/23(月)、熊本産業展示場グランメッセにて、ウッドマイルズセミナー2007in 熊本を開催した。基調講演「地球環境時代の木材とウッドマイルズの出番」藤原敬氏に続き、新産住拓(株)、(有)小椋住宅、(株)ミズタホームの3件のウッドマイルズレポート報告が行われた。90名が集まったセミナーは、松下修氏(松下生活研究所)コーディネートによる意見交換会も行われた。



(ウッドマイルズセミナー2007in 熊本)

ウッドマイルズセミナー2007in 北海道

ウッドマイルズレポートの発行に合わせて、8/31（金）札幌会場、9/1（土）下川会場の2会場にて、ウッドマイルズセミナー2007in 北海道を開催した。「ウッドマイルズ大国日本～森林認証からウッドマイルズへ」藤原敬氏、「ウッドマイルズからみる地域材建築の環境貢献」滝口泰弘氏の講演に続き、「京都府ウッドマイレージ CO2 認証制度の発足と展開」白石秀知氏、「つくばスタイル木の家クラブの活動報告と県産材の活用」中村泰子氏、「北海道「地材地消」の取組について」飯田宇之麿氏の3つの取組事例が報告された。札幌会場には93名、下川会場には65名が集まり、近藤勝氏（札幌）、武田浩喜氏（下川）コーディネートによる意見交換会も行われた。



(ウッドマイルズセミナー2007in 北海道：札幌会場)



(ウッドマイルズセミナー2007in 北海道：下川会場)

ウッドマイルズセミナー2007in 京都

9/20（木）～9/21（金）、京都府西別館にて、1泊2日のウッドマイルズセミナー2007in 京都が開催された。初日は「ウッドマイルズ大国日本～森林認証からウッドマイルズへ」藤原敬氏、「平成20年度住宅資材関連予算概算要求について」松下英之氏（林野庁）、「京都府ウッドマイレージ CO2 認証制度の概要と成果について」柴田繁氏（京都府）、「制度運用の実務と今後の展開について」洲上佑樹氏の講演、報告が行われ、翌日は、各地の木材の地産地消活動として、「長野県における県産材需要拡大の取組」今尾春彦氏（長野県林務部信州の木活用課）、「需要拡大を支える信州の木認証制度」三石一彦氏（信州木

材認証製品センター）、「ぎふの木で家づくりプロジェクト～岐阜県における県産材利用への取組」中通実氏（岐阜県林政部県産材流通課）の報告を交えたディスカッションを行った。セミナーには各地から40名が参加した。



(ウッドマイルズセミナー2007in 京都)

ウッドマイルズ算出講習会 2007（岐阜）

11/24（土）～11/25（日）、岐阜県立森林文化アカデミーにて、1泊2日のウッドマイルズ算出講習会2007が開催された。初日は「木造建築スタジオの概要」辻充孝氏、「ウッドマイルズの概要と算出方法」滝口泰弘氏の講義、及びパソコンを用いた「ウッドマイルズ算出実習」辻充孝氏、滝口泰弘氏の講義が行われ、翌日は算出事例報告会と題して「道の駅 美濃にわか茶屋」辻充孝氏、「下川町地域間交流施設」相馬修二氏、「大府の家」神谷義彦氏、「木造設計技術とウッドマイルズ」三澤文子氏による報告が行われた。講習会には各地から24名が参加し、新たに8名がウッドマイルズ関連指標算出技術者として認定された。美濃にわか茶屋の見学会も開催された。



(ウッドマイルズ算出講習会 2007（岐阜）)

伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発

森林総合研究所との共同研究「伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発プロジェクト」2年目は、熊本県・北海道の同一都道府県内における木材輸送および全国の合板・製紙工場に対する原料・製品流通実態調査を行った。

2008 (H20 年度 : 2008.4-2009.3)



(2008 年度総会 (東京))



(ウッドマイルズフォーラム 2008 (東京))

2008 年度ウッドマイルズ研究会総会

7/4 (金)、東京ビッグサイト会議室で 2008 年度総会が開催された。正会員 17 名及び表決委任者 42 名による総会は、藤原議長のもと全ての審議事項が承認された。また、新しい会長に藤本昌也氏が就任した。(正会員個人 75 名、正会員法人 16 社、賛助会員個人 27 名 : 2008.4.1 現在)

ウッドマイルズフォーラム 2008 (東京)

総会終了後、同会場でウッドマイルズフォーラム 2008 が開催された。第 1 部 (基調講演) では、「環境時代の今、木材にできること、やるべきこと」と題して、「木材供給者の視点から」熊崎実氏、「森林と木材消費者を繋ぐウッドマイルズ」藤原敬氏の講演が行われた。第 2 部 (パネルディスカッション) では、「各地の実践活動から木材の環境指標の連携・統合の可能性を探る」をテーマに、「京都府の活動」白石秀知氏、「熊本県・宮崎県の活動」松下修氏、「北海道下川町の活動」相馬修二氏、「自立循環型住宅研

究会の活動」野池政宏氏による報告とディスカッションが行われた。フォーラムには研究会関係者をはじめ、自治体、森林木材業、建築業、その他 62 名が集まった。

ウッドマイルズセミナー2008in 京都

9/18 (木) ~ 9/19 (金)、京都府職員福利厚生センターにて、1 泊 2 日のウッドマイルズセミナー 2008in 京都が開催された。初日の第 1 部 (基調講演) では、「地域の木で、地域の技で、地域の家を造り、守り、育てよう」藤本昌也氏、「環境指標による地域材の利用推進」藤原敬氏の講演が行われ、続く第 2 部では、「環境指標の実践現場から」と題して、「京都府ウッドマイレージ CO2 認証制度の現状と可能性」柴田繁氏 (京都府農林水産部林務課)、「大阪府木づかい CO2 認証制度の試み」三宅英隆氏 ((社) 大阪府木材連合会専務理事)、「ウッドマイルズとカーボン・オフセット」伊藤真吾氏 (京都府地球温暖化防止活動推進センター事務局長) の報告が行われた。翌日は、「地域材による家づくりの現場から」と題して、「彩工房の家づくり」森本均氏 ((株) DAC 代表取締役)、「地域材流通コーディネーターの役割とその必要性」安田哲也氏 ((有) ウッズ取締役) の報告および意見交換会が行われた。セミナーには、自治体担当者、林業・木材関係者、建築設計者・施工者、その他関係者・学生など 72 名が参加した。



(ウッドマイルズセミナー2008in 京都)

ウッドマイルズ関連指標算出技術者養成研修会

1/22 (木)、山梨県森林総合研究所にて、ウッドマイルズ関連指標算出技術者養成研修会が開催された。1泊2日のウッドマイルズ算出講習会 2007 が開催された。滝口泰弘氏によりウッドマイルズの概要講義、及びウッドマイルズ算出実習が行われた。講習会には地元関係者 41 名が参加し、ウッドマイルズ研究会会員受講者をウッドマイルズ関連指標算出技術者として認定した。

またウッドマイルズ算出講習会は、希望に応じて、岐阜、下関、東京、横浜、大阪で随時開催した。



(ウッドマイルズ関連指標算出技術者養成研修会 (山梨))



(第 10 回木質構造国際会議参加 (宮崎))

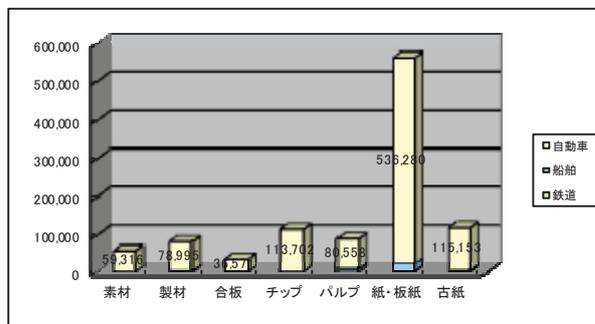
第 10 回木質構造国際会議参加 (宮崎)

6/2～6/5 にかけて、宮崎観光ホテルにて、WCTE (10th World Conference on Timber Engineering) という、木質構造に関する最新の技術・研究・設計手法等に関する発表や情報交換を主目的とした国際学会が開催された。世界 37 カ国から総勢約 500 名が集まり、材料工学や木質構造、地震工学、歴史伝統、環境などの 44 の分科会やポスターセッション、企業団体展示 (和光コンクリート工業・日本ツーバイフォー建築協会、住友林業、一条工務店、マイウッド・ツーなど) が行われ、各地各様の技術開発や

調査レポートが報告された。ウッドマイルズ研究会も「資源・環境」のセッションで、「ウッドマイルズ研究会の活動からの教訓 (藤原敬、滝口泰弘、白石秀知、相馬秀二、松下修)」と題して、昨年度行ったウッドマイルズレポートモニター事業を中心に活動を発表した。

伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発

森林総合研究所との共同研究「伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発プロジェクト」3 年目は、山梨県内事業者に対するアンケート調査および外材製品市場ヒアリング調査から、輸入素材・製材品の輸送経路の特徴を把握すると共に、7 品目 (素材・製材・合板・チップ・パルプ・紙・古紙) に対して、これまでの実態調査結果および各種統計データから、国内輸送炭素排出量を暫定的に推計した。



(H18 国内輸送品目別炭素排出量暫定値(t-CO₂))

木材利用に係る環境貢献度の見える化検討会参加

木材製品のカーボンフットプリント制度創設のために林野庁で開催された検討委員会に参加した。

(検討委員メンバー：(社)大日本山林会、東京農工大学大学院、全国森林組合連合会、(社)全国木材組合連合会、住友林業(株)、積水化学工業(株)、コクヨファニチャー(株)、ウッドマイルズ研究会、グリーンコンシューマー東京、経済産業省、国土交通省、環境省、林野庁)

合計 4 回の検討会 (第 1 回：9/22、第 2 回：10/30、第 3 回：12/18、第 4 回：2/26) により、「木材利用に係る環境貢献度の定量的評価手法について (中間とりまとめ)」を作成。

「環境の時代と木造住宅～地産地消の家づくりに向けて」

(社)日本建築士会連合会編 (3/18 発行)



三澤文子氏、六車昭氏、和田義行氏、藤本昌也氏による座談会をはじめ、各地の実践事例を収録した、建築士継続能力開発 (CPD) 制度の認定教材。提言編に、ウッドマイルズ研究会の活動を 40 ページに渡り掲載。

2009 (H21 年度 : 2009.4-2010.3)



(2009 年度総会 (東京))



(ウッドマイルズフォーラム 2009 (東京))

2009 年度ウッドマイルズ研究会総会

6/27 (土)、AP 浜松町会議室で 2009 年度総会が開催された。正会員 26 名及び表決委任者 61 名による総会は、藤原議長のもと全ての審議事項が承認された。(正会員個人 100 名、正会員法人 28 社、賛助会員個人 28 名 : 2009.4.1 現在)

ウッドマイルズフォーラム 2009 (東京)

総会終了後、同会場内でウッドマイルズフォーラム 2009 が開催された。第 1 部は、「森林～木材～家

づくり、持続可能な循環を目指して、進むべき道を語る」をテーマとして、箕輪光博氏 ((社) 大日本山林会副会長)、藤原敬氏 ((社) 全国木材組合連合会常務理事)、藤本昌也氏 ((社) 日本建築士会連合会会長) による座談会を開催した (司会進行 : 三澤文子氏)。第 2 部 (活動事例報告会) では、「森林～木材～家づくり、連携の実践事例に学ぶ」をテーマに、「森を想う 4 人の設計者が結成した森想人～神奈川の水源地の森と都市をつなぐ活動」鈴木直子氏 (住工房なお (株) 代表取締役)、「地域の家づくりのプロが集まった、つくばスタイル木の家クラブの活動」中村泰子氏 (つくばスタイル木の家クラブ事務局長)、「地域工務店が手を結んだ東京家づくり工務店の会～東京森の木の家プロジェクト」池田浩和氏 (岡庭建設 (株) 統括リーダー)、「持続可能な森林経営を中心とした自治体政策による、美幌発低炭素な町づくり」澤畑雅俊氏 (北海道美幌町経済部耕地林務グループ) による報告とディスカッションが行われた。フォーラムには官公庁関係者、森林・木材・建築関係者、学生、その他 63 名が集まった。

ウッドマイルズフォーラム in 美幌

4/18 (土)、北海道美幌町民会館にて、ウッドマイルズフォーラム in 美幌が開催された。第 1 部 (基調講演) では、「持続可能な森林経営と CO2 の見える化を目指して」箕輪光博氏の講演が行われ、第 2 部 (パネルディスカッション) では、「各地の実践活動報告から木材の環境指標の連携・統合の可能性を探る」をテーマに、「木材調達における環境指標～合法木材とウッドマイルズ」藤原敬氏、「顔の見える認証材で人・環境に優しい家づくり」高橋広明氏 (美幌・木夢クラブ会長)、「地材地消と北の木の家づくりの実践」武部豊樹氏 (武部建設 (株) 代表取締役社長) の報告とディスカッションが行われた。フォーラムには、地元関係者 40 名が参加した。



(ウッドマイルズフォーラム in 美幌)

ウッドマイルズセミナー2009

9/15 (火)～9/16 (水)、京都府職員福利厚生センターにて、1泊2日のウッドマイルズセミナー2009が開催された。初日の第1部は「地域材に求められる品質、普及戦略」をテーマに、「地域材に求められる品質」榎本敬大氏(国土交通省国土技術政策総合研究所)、「木材を取り巻く環境指標、環境政策の動向」滝口泰弘氏、「地域材の普及戦略」野池政宏氏の講演が行われた。翌日の第2部は「地各地の取組から現状の課題や可能性を探る」をテーマに、「京都府の取組」柴田繁氏、「新潟県の取組」二野宮雅弘氏、重川隆志志((株)重川材木店取締役)の報告、および池淵雅和氏(林野庁林政部木材利用課長)を交えた意見交換会が行われた。セミナーには、官公庁関係者、森林・木材・建築関係者、学生、その他62名が参加した。



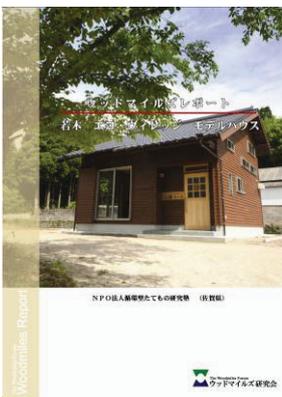
(ウッドマイルズセミナー2009 (京都))

ウッドマイルズ算出講習会

ウッドマイルズ算出講習会は、希望に応じて、静岡、岐阜、神奈川、北海道、新潟で随時開催した。

ウッドマイルズレポート編集発行

NPO 法人循環型たてもの研究塾、(株)中島工務店の2件のモデルハウスのウッドマイルズレポートを編集発行した。



(NPO 循環型たてもの研究塾)



(株)中島工務店

また、長期優良住宅先導モデル事業(平成20年度第2回)採択事業、「東京/森の木の家プロジェクト2(東京家づくり工務店の会)」に関する14物件のウッドマイルズ関連指標の算出を実施した。

ケーススタディー調査

木材に関する環境指標の連携・統合を目指す活動の一環として、森林～木材～家づくりの連携に関して異なるアプローチによる5事例(①下川町ふるさと開発振興公社クラスター推進部、②北海道美幌町、③「つくばスタイル」木の家クラブ、④東京家づくり工務店の会、⑤森想人)のケーススタディー調査を実施し、取組事例レポートを編集公開した。

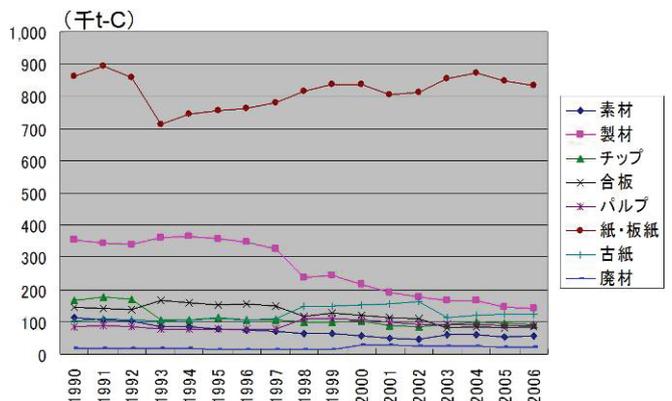


(森林～木材～家づくりの連携

: 異なるアプローチによる取組事例レポート)

伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発

森林総合研究所との共同研究「伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発プロジェクト」4年目は、自動車輸送の積載量別の検討を含めた、素材、製材、合板、チップ、パルプ、紙、古紙、廃材の8品目の国内輸送に伴う炭素排出量の年度別推計(1990～2006年)を行った。



(品目別国内輸送炭素排出量)

2010 (H22年度：2010.4-2011.3)



(2010年度総会 (東京))



(ウッドマイルズフォーラム 2010 (東京))

2010年度ウッドマイルズ研究会総会

6/19 (土)、木材会館会議室で2010年度総会が開催された。正会員20名及び表決委任者75名による総会は、藤原議長のもと全ての審議事項が承認された。(正会員個人127名、正会員法人37社、賛助会員個人27名：2010.4.1現在)

ウッドマイルズフォーラム 2010 (東京)

総会終了後、同会場内ホールで、「地球環境時代の今、どのような木材調達基準をつくるべきか」をテ

ーマとして、ウッドマイルズフォーラム 2010 が開催された。第1部は、「具体的な取組事例報告～木材調達環境基準づくりの現場から」と題して、「ハウスメーカーのフェアウッド調達基準と実践」中澤健一氏 (国際環境 NGO FoE Janan)、「富士山木造住宅協会の地域材調達基準と実践」遠藤龍一氏 (富士山木造住宅協会事務局長)、「港区の地球温暖化対策とみなとモデル (二酸化炭素固定認証制度) の検討状況」吉野亜文氏 (港区環境リサイクル支援部地球温暖化対策担当課長) による報告が行われた。第2部 (パネルディスカッション) では、「環境時代の今、どのような木材調達基準をつくるべきか」をテーマに、速水享氏 (速水林業代表)、榎本崇秀氏 ((株) 山長商店常務取締役)、岡崎時春氏 (国際環境 NGO FoE Janan 副代表理事)、藤原敬氏、藤本昌也氏、熊崎実氏、及び第1部報告者 (司会進行：三澤文子氏) によるディスカッションが行われた。フォーラムには官公庁関係者、森林・木材・建築関係者、学生、その他91名が集まった。

ウッドマイルズセミナー2010

9/27 (月)、京都府職員福利厚生センターにて、「環境、品質、多面的な地域材認証基準づくりを目指して」をテーマに、ウッドマイルズセミナー2010が開催された。第1部は「環境、品質、多面的な地域材認証基準づくりの取組事例報告」をテーマに、「ウッドマイルズ研究会「木材調達チェックブック」検討作成の取組」藤原敬氏、滝口泰弘氏、「京都府ウッドマイレージ CO2 認証制度、領域拡大の取組」柴田繁氏、淵上佑樹氏、「木材供給事業者の取組～山長商店における木材の品質管理について」榎本崇秀氏の報告が行われた。第2部は「取組事例報告を踏まえ、多面的な地域材認証基準のあり方を探る」をテーマに、ゲストパネラーの古田裕三氏 (京都府立大学大学院生命環境科学研究会准教授)、池淵雅和氏 (林野庁林政部木材利用課長)、鈴木千輝氏 (国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課長) を交えた意見交換会が行われた。セミナーには、官公庁関係者、森林・木材・建築関係者、学生、その他63名が参加した。



(ウッドマイルズセミナー2010 (京都))



(ウッドマイルズセミナー2010 (京都))

ウッドマイルズ算出講習会

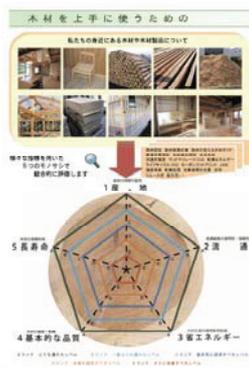
島根、東京、京都、岐阜、静岡で随時開催した。

「木材調達チェックブック」検討作成

多岐に渡る木材の環境指標及び品質項目を整理し、実態調査アンケートの結果やフォーラム・セミナー開催による意見収集を踏まえ、国産材・地域材需要拡大の核となる木造住宅設計者や工務店が、各地の実情に応じて自らの木材調達方針を積極的に作成できる、分かり易く、かつ多岐に渡る指標のバランスを保った、実務で使える「木材調達チェックブック」を作成するため、研究会関係者を中心とした検討委員(森林、木材、建築、一般、各分野の7名)により、検討委員会を合計3回(8/3(月)、10/8(金)、1/20(木))実施し、「木材調達チェックブック(建築物に使用される木材製品: vol.01)」を完成させた。



(木材調達チェックブック検討委員会)

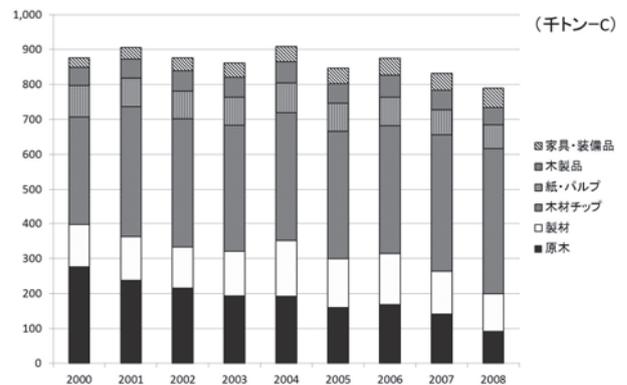


トレーサビリティシステム構築サポート

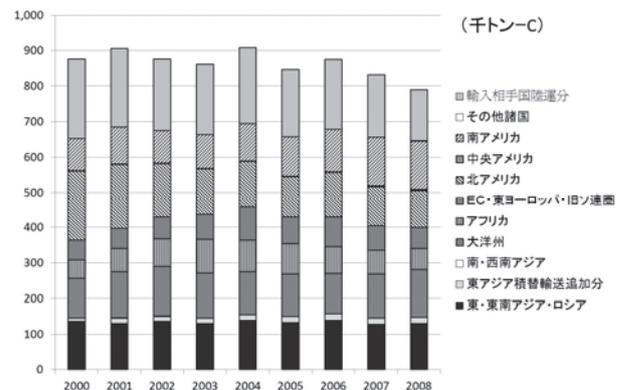
平成22年度鳥取県緑の産業再生プロジェクト(鳥取県補助事業、事業主体:(協) レングス)の一環として、トレーサビリティシステム構築に関する業務を受託し、(協) レングスの製品(Jパネル)の原木流通実態調査、トレーサビリティシステム及び環境貢献度の明示に関する提案を行った。

伐採木材製品の炭素貯蔵シミュレーションモデルの開発

森林総合研究所との新規共同研究「森林及び林業分野における温暖化緩和技術の開発ー伐採木材製品の炭素貯蔵シミュレーションモデルの開発」において、木材製品輸送に係る炭素排出量解析を担当し、平成22年度は輸入木材製品輸送に伴う炭素排出量を明らかにした。



(輸入品目別: 輸送過程炭素排出量の推移)



(輸入地域別: 輸送過程炭素排出量の推移)

また、昨年度までの林総合研究所との共同研究「伐採木材の利用に係る炭素収支モデルの開発(H18~H21)」で得られた成果の一部の内容について、2011年3月29日に認定公表された、カーボンフットプリントの商品別算定基準(PA-CC-01:木材・木質材料)における付属書C(丸太及び未利用間伐材等の輸送シナリオ)に反映された。

2011 (H23年度：2011.4-2012.3)



(2011年度総会(東京))



(ウッドマイルズフォーラム2011(東京))

2011年度ウッドマイルズ研究会総会

7/16(土)、安田コミュニティープラザ会議室で2011年度総会が開催された。正会員15名及び表決委任者91名による総会は、藤原議長のもと全ての審議事項が承認された。(正会員個人132名、正会員法人43社、賛助会員個人23名：2011.4.1現在)

ウッドマイルズフォーラム2011(東京)

総会終了後、同会場で、「木造仮設建築物の支援活動から、地域の森林・木材・建築を考える」をテーマとして、ウッドマイルズフォーラム2011が開催された。第1部は、「取組事例報告～地域の力を生かした、木造仮設建築物建設支援の現場から」をテーマに「LIFE311被災地支援プロジェクト～岩手県住田町の地域材仮設住宅支援」水谷伸吉氏(一般社団法人モア・トゥリーズ事務局長)、「手のひらに太陽の家プロジェクト～日本の森バイオマスネットワーク復興支援活動」大場隆博氏(日本の森バイオマスネットワーク副理事長)、「震災によって発生した廃木材の再資源化と木造仮設建築物への「復興ボード」供給の試み」内田信平氏(岩手県立大学盛岡短期大学部生活科学科准教授)、「3.11生活復興支援プロジェクト～学生による木造仮設公民館の建設」親松直輝氏(東海大学大学院建築学専攻)、下田奈祐氏

(東海大学工学部建築学科)による報告が行われた。第2部(パネルディスカッション)では、「取組事例報告から、地域の森林・木材・建築を考える」をテーマに、藤原敬氏、藤本昌也氏、熊崎実氏、及び第1部報告者(司会進行：三澤文子氏)によるディスカッションが行われた。フォーラムには森林・木材・建築関係者、学生、その他50名が集まった。

ウッドマイルズセミナー2011

10/26(水)、京都府職員福利厚生センターにて、「5つのモノサシを用いて、木材の調達を多面的にチェックする」をテーマに、ウッドマイルズセミナー2011が開催された。第1部は「木材調達チェックブックの概要と関連する京都府の取組」と題して、「5つのモノサシを用いた「ウッドマイルズ研究会版—木材調達チェックブック」の概要」滝口泰弘氏、「京都府の森林や木材に関する新たなアクションプランについて」森井一彦氏(京都府農林水産部林務課長)、「京都府産木材の品質基準と環境指標の領域拡大の取組」瀧上佑樹氏(京都府地球温暖化防止活動推進センター)、佐々木ふみ氏(京都府立大学大学院生命環境科学研究科)の報告が行われ、第2部は「木材調達チェック事例報告&意見交換会」と題して、「一般住宅の木材調達チェック事例」豊田保之氏(トヨダヤスシ建築設計事務所代表)、「地域材による公共建築物の木材調達チェック事例」清水安治氏(滋賀県教育委員会教育総務課)の報告、及びゲストコメンテーターの大熊幹章氏(東京大学名誉教授)、高木美貴氏(林野庁林政部木材利用課課長補佐)を交えた意見交換会(司会進行/白石秀知氏)が行われた。セミナーには、森林・木材・建築関係者、学生、その他48名が参加した。



(ウッドマイルズセミナー2011(京都))

伐採木材製品の炭素貯蔵シミュレーションモデルの開発

森林総合研究所との共同研究2年目は、「森林・林業再生プラン」により試算されている2020年の製材・合板・チップの需要量に対して、現状(2009年)からの輸送エネルギーの変化を推計した。

2012 (H24年度：2012.4-2013.3)



(2012年度総会 (東京))



(ウッドマイルズフォーラム 2012 (東京))

2012年度ウッドマイルズ研究会総会

7/21 (土)、木材会館会議室で2012年度総会が開催された。正会員15名及び表決委任者80名による総会は、藤原議長のもと全ての審議事項が承認された。(正会員個人137名、正会員法人47社、賛助会員個人23名：2012.4.1現在)

ウッドマイルズフォーラム 2012 (東京)

総会終了後、同会場内ホールで、「日本の森林の今を学ぶ」をテーマとして、ウッドマイルズフォーラム2012が開催された。第1部は「3つの報告から、森林の今を見つめる」をテーマに、「金原明善の思想を現在に～金原治山治水財団の方針」金原利幸氏(財団法人金原治山治水財団理事長)、「副業型自伐林業のススメ空全国に広がる土佐の森方式、自伐林業方式」中嶋健造(NPO法人土佐の森・救援隊事務局長)、「トライ・ウッドの役割～地域材ブランド「津江杉」の確立」木川研史氏((株)トライ・ウッド企画営業部)の報告が行われた。

第2部(ディスカッション)は、「第1部報告を踏まえて、森林の今を考える」をテーマに、ゲストコメンテーターの箕輪光博氏(公益社団法人大日本山林会会長)、小坂善太郎氏(林野庁森林整備部計画課

首席森林計画官)、及び熊崎実氏、藤本昌也氏、藤原敬氏を交えたディスカッション(司会進行/三澤文子氏)が行われた。

フォーラムには森林・木材・建築関係者、学生、その他57名が集まった。

森林・林業京都会議

3/5(火)、ルビノ京都堀川にて開催された「森林・林業京都会議」に、京都府、京都府林業振興会、京都府森林組合連合会、京都府木材組合連合会他との共同主催という形で参加した。

第1部の全体会議では、知事挨拶他、緑の工務店等の府内産木材利用の功労として、ウッドマイレージ推進に寄与した設計事務所や工務店の表彰も行われた。第2部の分野別会議では、「森林・林業活性化大会」、「モデルフォレスト運動推進大会」、「木材利用拡大大会」の3つの分科会が開催され、木材利用拡大大会に、講演及びパネラーとして、藤原敬氏、三澤文子氏が参加し、京都府産木材の利用拡大に関するディスカッションが行われた。



(森林・林業京都会議 - 木材利用拡大大会 (京都))

伐採木材製品の炭素貯蔵シミュレーションモデルの開発

森林総合研究所との共同研究3年目は、森林・林業再生プランにより試算されている2020年の製材・合板・チップの需要量に対して、品目別の現状の輸送距離帯や輸送手段を考慮した、モーダルシフトによる輸送エネルギーの削減量を推計した。

